

J R 東海労申第 4 号
2017年6月27日

東海旅客鉄道株式会社
代表取締役社長 柘植 康英 殿

J R 東海労働組合
中央執行委員長 小林 光昭

東海道新幹線架線切断に関する申し入れ

6月21日、19時54分頃、東海道新幹線の京都、大一両間において、架線（トロリー線）切断による停電が発生し、救援列車による旅客救済や特殊収容の取り扱いを行う等、復旧までに5時間以上の時間を要した。そのため、運転再開が22日未明となり、9万人にも及ぶ非常に多くの旅客に多大な迷惑を掛ける結果となった。

この事故は、午前中からの大雨による影響で東海道新幹線が運転を見合わせる等、列車に大幅な乱れが発生している中での事故であった。その影響から、停電の前も京都と新大阪の間の上下線に多くの列車があった。そのような状況にも関わらず、過負荷防止の為にノッチ制限を取り扱わなかったことがその原因とも報道されている。

新幹線の車体の屋根には、切断した架線が接触したために発生した複数の穴が開いていた。このことは、列車火災や沿線火災も起きかねない事態であり、二次災害、三次災害もあり得た大事故であったと考える。

運転再開後の列車運行に際し、指令からの指示が混乱した影響で、駅係員と乗客との間で多くのトラブルが発生する等、関係社員にも多大な混乱を生じさせた。又、無謀な運用による安全を無視した乗務の強要も行なわれている。

この間、列車の大きな乱れによる混乱は幾度もあったが、組合は、その都度申し入れをして混乱を再び起こさないための対策について追求してきた。しかし、またしても混乱は引き起こされた。このような会社の状況にあって、「新幹線車内業務の見直し」による車掌の2名体制は、異常時における多くの不安や問題点があると重く受け止めるべきである。

この間会社は、組合からの安全問題の申し入れに対して労使協議を拒否している。このような姿勢は安全軽視であり労組軽視である。今回の事故に関しては、国土交通省からも速やかに報告をするよう求められている。会社は姿勢を改め、下記の申し入れに対して早急に協議の場を設定すること。

記

1. 京都、大一両間の架線切断について事象を時系列で明らかにすること。
2. 架線が切断した原因を明らかにすること。
3. 架線切断寸前に京都、新大阪間の上下線に在線していた列車本数を明らかにすること。
4. 架線切断寸前に京都、新大阪間の上下線に多くの列車が在線していたが、ノッチ制限の過負荷防止対策を実施しなかった理由を明らかにすること。
5. 架線切断寸前に京都、新大阪間の上下線に多くの列車が在線していたが、駅間での列車抑止を実施しなかった理由を明らかにすること。
6. 大雨による列車抑止の運転再開後に、全ての列車を運行させ、結果過負荷で架線を切断し、無謀な運用による社員への負担を強いている。この間幾度ともなく申し入れているが、列車が乱れたときは、運転再開後も適度な列車の運休等で余裕を持った運用をするべきであると考えているが、会社の見解を明らかにすること。
7. 切断した架線の接触により車体に穴が開いたと報道されているが、どの列車のどこの部分にどれだけの数、大きさの穴が開いたのか、その事象と原因を明らかにすること。
8. 車体に穴をあける程の高圧の架線により、列車火災や沿線火災発生の恐れはなかったのか明らかにすること。
9. 切断された高圧の架線が車体に触れ、車体に穴を開ける以前になぜき電停止の取り扱いをしなかったのか明らかにすること。
10. 架線切断の影響により、G26編成とC56編成で調査及び修繕を実施しているが、調査及び修繕歴を明らかにすること。又、他の編成には影響がなかったのか明らかにすること。

11. 救援列車において乗客の乗り換えの際に車椅子の乗客を救済できなかったと報道されているが、その事象及び原因、今後の対策を明らかにすること。
12. 特殊収容列車の実施本数及び実施駅を明らかにすること。
13. 旅客の救済に際して、車掌の呼び掛けに協力した社員は何名いたのか明らかにすること。
14. 乗務員の運用で、睡眠時間が2時間にも満たない状態で乗務する乗務員が多数いた。安全上非常に危険な状態であったと考えるが、会社の考えを明らかにすること。又、会社はこのような状態を当たり前のように放置し、そのまま乗務させたが、乗務の途中で乗務員に心身状態の異常があった場合、会社として責任を持つのか明らかにすること。
15. 設備関係、運転取り扱い関係、旅客に関する対応の関係、駅係員や乗務員の運用の関係等について、今後の対策について明らかにすること。
16. 今回の事故で、異常時における車内の混乱に対する対応や車椅子の乗客に対する旅客救済の不備等、多くの問題がまたもや露呈した。このような状態で「新幹線車内業務の見直し」は不可能である。来年3月実施しようとしている「新幹線の車内業務の見直し」は直ちに中止すること。

以 上